

---

## 淡水生カメ類の屋外飼育施設におけるカメの盗難被害(2014～2018年)

楠田哲士

501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学応用生物科学部

Theft of freshwater turtles at outdoor rearing facility in Gifu University.

By Satoshi KUSUDA

*Faculty of Applied Biological Sciences, Gifu University, 1-1 Yanagido, Gifu 501-1193, Japan.*

---

2018年10月27日, 岐阜大学構内の淡水生カメ類の屋外飼育施設「淡水生物園」(岐阜大学動物実験委員会指定の実験動物飼養保管施設. 施設の詳細は楠田他(2013a)参照)に高齢男性1名が無断で侵入し研究飼育エリアの区画池のカメ2個体が無断で持ち出された.

園内には, 侵入動物の撮影用に2台のセンサーカメラを設置していたため, その一連の様子が連続写真として記録されていた(図1). ただし, 動物撮影用のためカメラはやや下向きの角度で設置していたため, 不審者の顔は写っていなかった. 午前10時59分, 3カ所ある出入口のうち, 道路沿いのメインの出入口(研究飼育エリア側)から, 手ぶらで侵入し, それぞれの手にカメを1個体ずつ持ち, 道路沿いのもう1つの出入口(自然飼育エリア側)から午前11時13分に出て行った. この間, 約14分間であった. 大学構内は定期的に警備員の巡回が行われているが, 事件当日は大学祭期間中であり, 構内には多くの人を訪れていた. 画像から判断して, カメの種は2個体ともミシシippアカミガメであり, おそらく背甲長15cm未満の個体であると思われる. また, 捕獲は素手によるものと思われる. ミシシippアカミガメは比較的警戒心が強く, ほとんどの個体は著者や学生の飼育管理者であっても, 園内に入るとすぐに水中に潜るため, 盗難にあった2個体は弱っていた可能性もある.

当該施設のセンサーカメラは侵入動物の撮影用であり, 出入りする人は基本的に学生等の飼育管理者であるため, 人が写る画像はこれまでほとんど無視していた. 今回の事件を受けて, 過去のセンサーカメラ画像をすべて確認した結果, 2014年以降, ほぼ毎年1～2回, 9～11月に不審者(高齢男性)が写っていたことが判明した.

2014年9月10日午後1時34分から約30秒間, 自然飼育エリア内を往復する様子が写されており, その手には背甲長10cm程度のクサガメが後ろ手に持たれていた(図1). また, 2014年9月25日午後1時33分から約1分間, 2015年10月31日午前9時23分から数秒間, 2015年11月1日午後12時8分から約2分半, それぞれ研究飼育エリア内を物色する同男性が写っていた. 2015年11月1日はカメを捕獲しようとして逃げ

られたと思われる行動が、一連の画像から判断できた。さらに、2017年9月24日午後1時32分に自然飼育エリア側(ニホンイシガメの保護増殖池)で、背甲長15cm以上と思われるニホンイシガメを右手に持つ写真が写っていた(図1)。なお、2016年の同時期にはセンサーカメラは設置していなかった。

これらの写真のうち、2014年と2015年のものは顔をはっきり捉えており、同一人物であった。それ以外の年の男性が同一かは不明であるが、服装は異なるもののすべて同じメッシュのベストを着用していたことから同一人物である可能性が高い。2019年1月30日、本稿をもとに警察署へ被害届を提出し受理された。

本施設では、ミシシippアカミミガメとクサガメを研究用に、またニホンイシガメを保護増殖のために飼育している。今回のような事件が二度と起こらないよう、今後さらに監視体制を強化するとともに、情報提供を呼び掛けていきたい。屋外飼育を行う場合の注意点として、捕食者となる侵入動物(楠田他, 2013b; 楠田・野瀬, 2019)だけでなく、人による盗難被害も想定する必要があり、その実例を公表することで注意喚起につながれば幸いである。



図1. 不法侵入者の手に写っていたクサガメ(2014年)、ニホンイシガメ(2017年)およびミシシippアカミミガメ(2018年)

引用文献

楠田哲士・安積修平・加古智哉・宮元彩希・古橋美穂・吉川晶子. 2013a. ニホンイシガメの保全池「淡水生物園」の活動. 亀楽 6:4-7.

楠田哲士・原口句美・加古智哉. 2013b. ハシブトガラスとイエネコによるニホンイシガメ卵の食害. 亀楽 6:8-10.

楠田哲士・野瀬紹未. 2019. 爬虫類に対する侵略的外来種イエネコ(問題提起)と岐阜大学淡水生物園でのカメ類への被害対策事例. 亀楽 19:19-24.